

第1回「ATAMI2030会議」

熱海リノベーションまちづくり実行委員会

日 時 平成29年6月17日(土)

15:30～18:00

場 所 ロマンズ座

銀座町8-13 2F

昨年度熱海市では「リノベーションまちづくりと融合した創業支援による地域活性化」事業の一環として、リノベーションまちづくり構想を策定しました。

本年度は策定した構想を実現に移すべく不動産オーナーや有識者による委員会を設置し、年度5回の公開型会議を開催いたします。この会議は、市民や民間事業者、創業希望者など様々な方にご参加いただき、2030年を見据えた熱海の「暮らし」「仕事」「ツーリズム」を考え、行動に移すきっかけの場になりたいと考えています。

第1回目は「まちなか空間の使い方」をテーマに、ゲストによるトークや事業者によるミニトークを行った後、会場を交えた意見交換を行いました。

○次第

1. あいさつ・・・熱海市副市長 森本 要
2. ATAMI2030について・・・熱海市観光経済課産業振興室 室長 長谷川 智志
(ATAMI2030プロジェクトの進捗について)
3. 座長・委員紹介
4. 座長あいさつ
5. 今回テーマの説明・・・熱海市観光経済課産業振興室 主任 小林 久紀
6. ゲストトーク「「どこもかしこも駐車場」を考える」
株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役 西村 浩 氏
7. 実践者ミニトーク
海辺のあたみマルシェ元実行委員長 植田 翔子 氏
8. 会場も交えた意見交換

○内 容

まず初めに、第1回「ATAMI2030会議」の開催にあたり熱海市副市長森本要からの挨拶に続き、市の担当者から熱海リノベーションまちづくり構想及びプロジェクトの進捗について説明がありました。その後座長・実行委員の紹介、座長挨拶を経て、今回のテーマ設定、「まちなか空間の使い方」の説明が市の担当者から行われました。

その後、ゲストトークとして「どこもかしこも駐車場」を考えると題し、株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役の西村浩氏による、まちなかにある空き地や駐車場等の活用方法をお話いただきました。

休憩後、実践者ミニトークが行われ、元海辺のあたみマルシェ実行委員長の植田翔子氏による、銀座通りの道路を活用したマルシェの取り組みをお話いただきました。

その後、委員を含めた約100名の参加者による意見交換が行われました。

村松委員からはここ数年熱海の特に駅前の変化を見てきたが歩行者の数がずっと変わらず増えており地元商店街の力強さを感じた。また、西村氏の講演を聞き、熱海も歩行者がもっと気持ち良く歩くことができるまちに整備されるとまちの魅力が増す。この会の前に行われたトークセッションで起業・創業に登壇させてもらったが、魅力あるまちになると起業・創業を目指す人たちの可能性が広がる。官民が協力してこのようなまちづくりが進むと良いと感じた。

内田委員からは旅館の経営者には駐車場を保有している方も多くいる。自分自身も駐車場を持つとしたが、西村氏の話聞きやめようと思った。いままでまちの発展と駐車場を結び付けたことが無かった。私が小さいころから熱海の一等地にあるサンビーチ前の駐車場を再開発するとすると大手が飛びついてくるし、もっとあの場所の活用を検討したほうがよいと感じた。また、現在芝生に興味津々である。例えば銀座通り、ここを歩行者天国にし、全面芝生にする。子どもが寝っ転がり両親は買い物をする、そうすると一夜にして土地の価値が2倍にも3倍にもなるのではないかと感じた。熱海は良い意味での悪い意味でもコンパクトシティであるのでいじりがいがある。もちろん利害関係者の方の協力、行政の協力が必要だと思いがまだまだ熱海は行けるとあらためて思った。

→西村氏の講演は本当に目を開かせていただいた。内田委員からご指摘いただいた駐車場は過去からの経緯で駐車場となっているが、市が保有している駐車場も数多くあるし稼働率が上がっていないところも事実。公共が保有しているオープンスペースとして使い方をきちんと考えなければならない。駐車場とするのか別の使い方をするのか、行政も不動産を所有するオーナーとして使い道を考えることが重要であることをあらためて感じた。また、都市政策を20年30年と考えていった時、現在のように市の中心部に車が乗り入れるのが良いのか悪いのか、そういったところをみなさんと話し合い、そして行政も勉強しなければならないと改めて感じた。(森本副市長)

大島委員からは渚町周辺を歩いていると日影が少ないと感じた。熱海市全体として緑被率は山があるので決して低くないが、人の住んでいるところのエリアは緑被率が極端に低いのでは感じた。やはり人が歩いてこそ下町の魅力につながるのを見た目だけではなく緑があると人があつまってくるのではないかと感じた。

水野委員からは区画がしっかり線引きされているのが日本の現在の状況であり、今後そこをゆるっとしていくことが重要である。それがパブリックマインドを持つということで、育てていくことが必要であるとあらためて感じた。実家のお寺は昔、寄合などに使われていてかなり公共の空間であった。しかし事業継承していくにつれてクローズドになっていってしまった。そして自分たちだけで問題解決しなければな

らなくなってしまうのだが、オープンにすることで場所の共有・問題の共有をはかり解決していくことが大切だと感じた。

小野委員からはまちづくりは責任感がある人と無責任の人のバランスが重要で、共存できる環境が大切だと思う。水もそうだが、温度差があると対流が起こりやすい。まちづくりにも同じことが言えるのではないか。1年のうち1日しか滞在しない人も熱海にとって大事なプレイヤーだし、365日住んでいる人も大事なプレイヤーだし、熱海で100%稼いでいる人も100分の1しか稼いでいない人もいろいろな人が集まり対流できている環境が熱海には既にあり、まちの底力を感じた。

その他意見

・道路や駐車場を変えていくためにはどこからどのように手をつけていったらよいか、また同じようなことだが道路が隔てている海から人が安心して歩いてまちを楽しむための仕組み作りをどのように行っていけばよいのかヒントがあればいただきたい。

→唐突だがアート熱海はどうでしょうか？アートとは何かとか全然固まっていないが提案です。

→熱海と言えば海と思うが、確かに現状は道路で分断されておりパッと繋がらないと感じた。先ほどの講演内でも示したが、絵を描いてみる事から始めればよい。理想となる絵を描いた時にどんな問題があるのかがわかり、単純に言えばそれを解決すればよい。その時は公とか民とか関係なくとにかく描いてみる。そして一つずつ解決していけば、いつか完成できる。ポイントとしては後ろをみること。前から見るだけではできないことも後ろから見ると紐解けることもある。(西村氏)

→海から繋ぐ要素として川がある。川は人が暮らせるようにある程度整備されていて魅力的である。ただちょっと不十分な部分もある。桜の季節とかよいが、日常的に親しめるようになっていない。川を通過していく人が大半ではないか。停滞させるためにはヒダを作ると良い。川辺には限界があるので、川に面した道路・駐車場の活用を考えるとよい。こういった道路・駐車場を活用することで人の停滞が生まれまちを楽しむ仕組みができる。(大島委員)